

〔 作 物 〕

甘しょ「コガネセンガン」の生理生態的な2, 3の知見について

内 村 力
(鹿児島県農業試験場鹿屋支場)

UCHIMURA, T.

Some Knowledge on the Physiological and Ecological of Sweet Potato
"KOGANESENGAN"

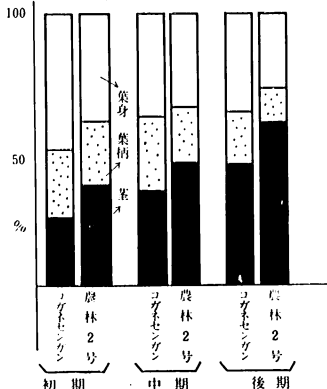
1. はじめに

甘しょコガネセンガンは高澱粉多収品種として、広範囲に栽培されつつあるが、本品種の外部形態的な特性と、肥料養分の吸収～分配率を農林2号と比較し、栽培技術上の基礎資料を得るため、試験をおこない、2, 3の知見を得たので報告する。

2. 試験方法の概要

供試品種はコガネセンガンのほかに比較品種として農林2号を用い、7月9日に植付した。施肥量は、標肥、中肥、多肥とし標肥区はa当りN:6kg P₂O₅:9kg K₂O:12kgとし、中肥は標肥の2倍、多肥は3倍量とした。調査は生育初期(8月29日)、地上部最盛期(9月26日)、生育後期(11月7日)の3回とし、1回の抜取個体は45ヶ体で、その中庸な10個体につき、葉身、葉柄、茎、塊根に分類し分析に供した。

3. 試験結果および考察

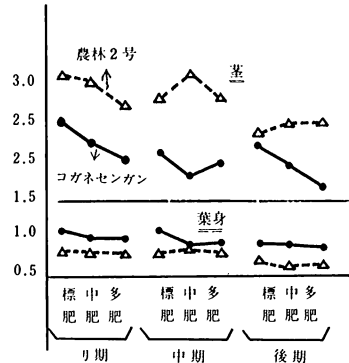


第1図 地上部の器官別乾物重構成比

(1) 地上部の各器官別乾物構成比は第1図に示すとおり、コガネセンガンは農林2号に比較して、生育全期間を通じ葉身重歩合は高く、逆に茎重比は低い傾向が認められる。

(2) 生育時期別、窒素および加里の吸収量：コガネセンガンは生育初期は若干農林2号より多い吸収量を示すが、地上部最盛期以降は施肥量の増加にともない吸収量の増加がみられ、肥料の吸収利用率が高いことが伺える。

(3) 吸収された窒素、加里の器管別分布割合は品種間に特徴的な差がみられ、コガネセンガンは農林2号に比し葉身、葉柄中に多く分配され、茎中にはきわめて少ない分布を示し、特に加里はこの傾向が著しい。



第2図 葉身、茎中のN, K比

(4) 光合成能力と関係が深いとされている葉身中のN:K比率は第2図に示すとおりである。すなわちコガネセンガンは農林2号より生育各時期、施肥量の増減にかかわらずN:K比の高い傾向が認められる。一方、非生産部位である茎中では逆に低い値を示していることは両品種間の差異として注目すべきことである。このことからコガネセンガンは葉身の光合成能力が農林2号より高いものと推察される。

以上のような諸要因が生育に反映されコガネセンガンは多肥段階でより一層効果的に多収性を発揮するものと思われる。